

# 調査報告書

訪問調査日	2008年02月29日
調査実施の時間	開始10時10分 ～ 終了15時40分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あすかちやんの家 ( 鹿児島県 )
-------------------	------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u> 氏名 <u>新納 祐子</u>
事業所側対応者	職名 <u>代表者 ・ 管理者</u> 氏名 <u>前園 利秋 ・ 前園 みさ子</u> ヒアリングを行った職員数 ( 3 )人

<b>※記入方法</b>	
●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。	
●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。	
<b>※項目番号について</b>	
●外部評価項目は30項目です。	
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。	
○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。	
<b>※用語について</b>	
●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。 (他に「家族」に限定する項目がある)	
●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。	
●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。	
●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。	

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4670300963号		
法人名	仁救所 有限会社		
事業所名	グループホーム あすかちゃんの家		
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町下小原3046-1 (電話) 0994-63-9581		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】 (2008年 2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 2月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋防火隔壁 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有 ( 円 ) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		833 円

(4) 利用者の概要 ( 2月 10日 現在 )

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護 1	1名	要介護 2	1名
要介護 3	3名	要介護 4	3名
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福留胃腸科・森田胃腸外科・重久歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者・管理者は開設時から、リハビリ等の重要性を認識し、ADLの機能維持に取り組んできている。木の温もり・自家発電やオール電化・床下に敷き詰めた炭・テラスデッキの流し台やかまど等、利用者への配慮をした建物になっており、明るく、広々とした清潔感のあるホームである。食材にもこだわり、近くの畑で野菜を作り、地元の肉や卵を直接仕入れるなど工夫している。職員は経験豊富でチームワークも良く、入居者は今までの暮らしを継続し表情も明るい。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	説明文書への権利・義務、苦情・相談窓口が明記され、介護計画書への同意印もあり改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	半年ごとに事業所としてサービスの内部評価を行い、自己評価についても意義やねらいを全員で話し合い、取り組んでいるが、空欄の項目もある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民代表・市議員・市担当者・家族代表など参加を呼びかけて開催し、ホームからの情報提供を行い、メンバーからの意見など話し合い、運営推進会議をサービスに活かそうと努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明している。運営推進会議に家族にも参加してもらい、意見や苦情・不満を表す機会を作り、それらを運営に反映させる姿勢がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者・管理者は開設前より地域の人と付き合いがあり、地域の人が野菜を持ってきてくれたり、散歩時に挨拶をする等交流している。認知症や介護技術等について、地域の人に指導して地域貢献に努めている。

## 2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 石松 成子 \_\_\_\_\_ / 調査員氏名 新納 祐子 \_\_\_\_\_

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員と話し合い、事業所の目指す理念を作り、毎日のケアに反映させている。地域密着型サービスとしての内容にはなっていない。	○	今までの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を理解し、「地域の中でその人らしく生活することを支える」具体的な、理念が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関正面に、代表者手書きの理念を明示し、勉強会の時など理念について話しており、理念を意識したケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、代表者・管理者は開設前より地域の人とつきあいがあり、地域の人が野菜を持ってきてくれたり、散歩時に挨拶するなど交流している。認知症や介護技術等について地域の人に指導して地域貢献に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	半年ごとに事業所としてサービスの内部評価を行い、サービスの質向上に積極的に活かすよう努め、自己評価についても意義やねらいを全員で話し合い、取り組んでいるが、項目により空欄がある。		空欄の項目についてもう一度全職員で話し合い、自己評価を実施して具体的な改善に取り組むことが望ましい。

グループホームあすかちゃんの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表・市議員・市担当者・利用者家族に参加を呼びかけ、ホームからの情報提供を行い、メンバーからの意見など話し合い、運営推進会議をサービスに活かそうと努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	合併や市職員の異動など課題のある中で、利用者や利用者家族の代弁者として、市担当者と関係づくりを積極的に行い、考え方や実態を共有していくよう努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	廊下等に入居者の写真を掲示して訪問時に見てもらったり、行事の様子や日頃の様子を伝えたり、金銭管理の報告をしている。健康状態については変化があったらその都度電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明している。運営推進会議に家族にも参加してもらい、意見や苦情・不満を表す機会を作っている。それらを運営に反映させる姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者は馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、採用時に経験豊富な職員を採用し、離職を最小限に抑える努力をしている。職員の写真をホーム内に明示し、職員を紹介するなど家族への配慮もある。		

グループホームあすかちゃんの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識し、代表者が講師となり、毎月テーマを決め勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、地域の同業者と、研修等で交流している。地域の同業者と協働しながら質の向上に励んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があったら利用者や家族にホームの見学を勧め、代表者や管理者は自宅を訪問して、利用者と馴染みの関係を築くよう努めている。入居後も自宅に帰り、家族と過ごす時間を持ち、安心感をもってもらうように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、昔の話を聞いたり、折り紙など教えてもらったりしている。共に支えあう関係を築いている。		

グループホームあすかちゃんの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日頃の生活の中で、思いや希望を聞いている。担当者会議に家族にも参加してもらい、家族からも本人の思いや家族の意向を聞くよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に家族の参加を呼びかけ、主治医の意見もきいて、毎月カンファレンスを開催し、職員の気づきや意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿って3ヶ月毎に見直しを行っている。状態変化や本人・家族の希望があれば主治医や関係者と相談し随時見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅訪問時の送迎や病院受診の送迎・介助を家族と相談し、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の診療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望で主治医とも話し合いホームとして対応できる最大限のケアを実践している。重度化や終末期に向けたマニュアルを作成し、家族・医師・職員と話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを確保することの重要性を全職員が理解しており、言葉掛けや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝時間など一人ひとりのペースを大切に過ごしてもらっている。晩酌をしたり好きな手芸をしたり本人の気持ちを尊重している。		


グループホームあすかちゃんの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞いて決め、自家栽培の野菜や、地元の肉や卵など利用して、下ごしらえや盛り付けなど手伝ってもらっている。咀嚼の状況に合わせて刻み食も提供し、さりげなく介助しながら一緒に楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を決めているが、一人ひとりの希望やタイミングで支援している。入浴拒否の方も自然に入浴するよう声かけし、臨機応変に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	広くて長い廊下を、自分のシニアカーや杖について、リハビリとして実施し、いきいきと生活している。習字や折り紙、カラオケなど楽しみにしている。日向ぼっこでの会話は何よりの楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日の散歩や買い物は希望に添って支援している。地域の祭りや市・駅伝の応援・音楽会・ドライブ・季節の花見など気分転換や季節感を味わうために外出している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	代表者・管理者・全職員が鍵を掛けないケアの重要性を認識し、入居者が外出された場合はさりげなくついて行くなど工夫し、鍵を掛けないケアを実践している。		



グループホームあすかちゃんの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの構造や設備などリスクを最小限に抑える配慮はあるが、避難誘導など実技を伴う訓練を実施していない。	○	消防署と協力し、定期的な防災訓練を行うなどの取り組みが求められる。災害に備えた備品等の準備が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が2名おり栄養バランスを考えて調理し、食事の摂取量は記録して、体重管理も毎月実施している。刻み食など状態に合わせた支援もしている。水分は十分取れるよう配慮し、水分チェックは必要な人は記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下も広々として、窓もはき出し窓や排煙窓など工夫され、ホーム全体が明るい。居室やホールから畑や景色が望め季節感を感じることができる。浴室やトイレも手すり等設置し、清潔感もあり居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋が3部屋あり、布団もきちんと整理され、落ち着いた雰囲気がある。居室には手作りの作品やカレンダー・写真・人形を飾るなど本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。